



サイジナル

月刊
24-11-12
第406号

日本サイ科学会 平成 24 年 11 月 1 日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

東 北 <small>〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1 アサノビル201号</small> 佐佐木 康 二 <small>☎ 022 (279) 0908-FAX 022 (274) 0097</small>	中 部 <small>〒503-0981 大垣市松町1290</small> 山 田 哲 三 <small>☎ FAX 0584 (91) 1192</small>	北 陸 <small>〒920-0864 金沢市高岡町12-45-1F ホリスティック健康科学研究所内</small> 佐 藤 禎 花 <small>☎ 076 (234) 6634</small>	関 西 <small>〒659-0011 芦屋市六麓荘町 (事務局) 9-39</small> 木 村 のり子 <small>☎ FAX 0797 (22) 6425</small>	九 州 <small>〒862-0976 熊本市九品寺 1-9-7</small> 金 子 輝 夫
---	---	--	--	---

十一月本部例会のお知らせ

気(生命エネルギー)の 実在と能力

講師 藤森博明氏

自動車や電車が動くには、ガソリンや電気というエネルギーが必要になります。では、人間や動物が動くには、どのようなエネルギーが必要になるのでしょうか。

これまで人類は、水力の水車、風力の風車、そして石炭の蒸気機関、電気のもーター、ガソリンのエンジンなど沢山のエネルギーを活用する手段を開発してきました。しかし、それらは生命体を動かすエネルギーではありません。いわば無生物を動かすエネルギーの利用法でした。

生物と無生物の最大の違いは、自分の意思で動き出すか否かにあります。さらに、生物は自発的に成長し、子孫を残し、自己修復する機能を備えています。これらの活動を支えるエネルギーは必ず存在します。しかもそれはシンプルなもの。そのエネルギーが、古来

より「気」と呼ばれています。

気は、複雑で発展的な生命体を動かすエネルギー。呼吸や食物から得られます。しかし、動かす対象物が複雑なゆえに説明は遅れています。今、分かるのは気エネルギーの実在と能力の一端。私は、幸いにも修練中に気の間を捉えることができました。今回は、気の感知方法の解説と気の凄まじいパワーの一部をご覧頂ければと思います。

※長年気の修行をして、パワーを発する能力者の実演や道場でのビデオも見られますので、会員の皆様もご友人、知人をお誘いして、是非ご参加ください。

●藤森博明氏のプロフィール

「合気」という秘技をとらえるために身体の緩め方を工夫していた。そんなある日、腸腰筋の感覚をつかむ。それをもとに、「スカイウォーキング」という歩き方を開発。そのお陰で腰椎や丹田が緩み、念願の「気」をとらえる。以来、気の巡る身体となり、大病などは全くの無縁になる。

練馬区平和台にある「健康道場

今月号の記事

- ◎十一月本部例会のお知らせ
- ◎ご寄付のお願い
- ◎御寄付御礼
- ◎十二月本部例会予告
- ◎心を科学する為の博物資料室
- ◎第17回宇宙生命研究分科会予告
- ◎一月本部例会予告
- ◎北陸サイ科学会十一月例会予告
- ◎関西サイ科学会十一月例会予告
- ◎関西サイ科学会十二月例会予告
- ◎関西サイ科学会一月例会予告
- ◎五月本部例会報告
- ◎第三六九回関西サイ科学会報告
- ◎第三七〇回関西サイ科学会報告
- ◎本部月例会講演録の販売
- ◎願いを叶える為の科学(1)

◎ご寄付のお願い

日本サイ科学会は主として会員の皆様からの会費で活動を続けておりますが、皆様からの御寄付にも大変助けられております。

会員の皆様の会を支えるお気持ちとして、金額は任意で構いませんので、一頁上記の郵便振替口座に、「一般の御寄付」としてお振り込み戴ければ大変有り難いです。

ウエルネス気の家」にて気を利用した健康法、衰えない身体創り、スポーツ指導を行う(昭和26年生まれ。品川区出身。都立八潮高↓電気通信大学物理工学科卒)。

著書は「気が分る本」、「気になる本」(コスモス・ライブラリー)他。

日時 平成24年11月10日(土)

午後1時半～5時

会場 北とびあ7階701会議室
交通 J R京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円

学生 一〇〇〇円

御寄付御礼

(10/1受領分まで)

金三十万円也 品川 次郎 様
金六万円也 木村 陽一 様
金三万円也 金子 輝夫 様
金五千円也 屋敷 益男 様
金二千円也 前田 豊 様

十二月本部例会予告

忘年会も兼ねた会員の体験 意見発表と討論の会

毎年恒例となっている一人の講師の講演ではなく、参加者の皆様からのUFO、超常現象、心霊現象、オーブ等サイ現象に関する目撃・体験や意見の発表、それらをテーマにした意見交換・討論等、気楽な感じで懇談会を開催致します。

今回最初にまとまって何か発表したい方一、二名に20分位ずつで口火を切って頂いて、引き続き出席者の皆様から自由に発表して頂きます。

皆様の中で、ご自分で撮った不思議な写真、VHSテープ等もお待ちしております是非ご持参してください(VHSテープやDVD等をお見せしたい方は、装置予約のため早めに事務局にお知らせ願います)。

スプーン曲げ等の念力、透視能力・予知能力などサイ能力に自信のある方、または友人、知人に能力者のいる方は是非お連れしてください。

ださい。また、ご自分では気が付いていないのに、思いがけない超能力を発揮する方もおられるかもしれません。

特別講師はおりませんが、参加者の皆様の自由な発言でいつも楽しい会になりますし、終了後の懇親会も面白い話題で盛り上がります。

参加費は、会員、一般とも千円です。ので、気楽にご参加願います。※最初にまとめて発表したい方は、事務局にメール、またはFAX願います。

日時 平成24年12月8日(土)

午後1時半～5時

会場 北とびあ8階805会議室
交通 J R京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 一〇〇〇円

「心を科学する為の博物資料室」のご紹介

駒ヶ根市「おもしろかつば館」内に、「心を科学する為の博物資料室」が2012年7月1日(日)から設置されました。

<http://www.komagane-kappa.jp/>
資料(約45点)が特別室内に展示されており、故関英男先生(サイ科学会)の関係資料は、来年7月から展示する予定。

なお1年間の試行展示で、効果があれば、拡大して(継続)展示する予定です。資料室付属の「気エネルギー試験室」は、実験が進行中。

第17回宇宙生命研究分科会

第6回 アセンション・シンポジウム

日時 平成24年12月21日(金)

午後6時～9時

会場 品川健康センター第3会議室(品川区北品川3-11-22)

03-5782-8507)

交通 京浜急行新馬場駅徒歩2分

J R京浜東北線大井町駅東

口から東急バス「渋谷駅」行

で「新馬場駅前」下車

一般会費 五〇〇円
 会員会費 一〇〇円

(日本サイ科学会・サトルエ
 ネルギー学会・太陽の会・
 日本空中現象調査委員会)
 ※会員以外の方の参加も大歓迎

尚、毎年12月21日開催の〈アセン
 ション・シンポジウム〉は、まさに
 マヤの長期暦終了の今回をもって
 終了とします！ 3月のヒポクラ
 テスシンポジウム、7月のUFO・
 オープンシンポジウムはこれまで通
 り、開催します。来年の12月は
 〈異能科学シンポジウム〉(仮題)
 を開催する予定！

(世話人 阿久津 淳)

一月本部例会予告

α 波のコヒーレンシーに
 ついて

講師 志賀一雅氏

外界からの刺激によらずに観測
 される脳波は定在脳波と呼ばれ、

周波数帯域により δ 波(1-3Hz)、

θ 波(4-7Hz)、 α 波(8-13Hz)、

β 波(14-30Hz)と呼ばれてゐます。

α 波は後頭部から閉眼時に強く
 観測され、目を開けたり考えごと
 をすると消失することからリラッ
 クスの脳波と言われていますが、
 前頭部から半眼状態の座禅の瞑想
 中において α 波が計測された報告
 があり、筆者は自律訓練法におけ
 る受動的注意集中状態でも前頭部
 から α 波が観測されることを見出
 しました。

特に左右前額部から計測される
 α 波が一定時間コヒーレントに
 になると、その理由は不明ですが、
 ESPやPKと思われる現象が観
 察されます。また、2人の前頭部
 の脳波を同時に計測して一定時間
 コヒーレントな状態が続くとリー
 ディングやヒーリングが行える状
 態になるのではないかと思われま
 す。これらの具体的な事例につい
 て紹介します。

※能力開発・応用分野における脳
 波測定的第一人者である志賀一雅
 先生の、久しぶりの御講演ですの
 で、会員の皆様はご友人・知人を
 お誘いして是非ご参加願います。

●志賀一雅氏プロフィール

1937年 東京生まれ

1961年 電気通信大学卒業

松下電器産業入社、東京大学物
 性研究所にて半導体物性を研究

1965年 松下技研にて半導体
 集積回路、LSIの開発

1976年 東京大学工学部研究
 員を兼務しアルファ脳波の研究

1983年 株式会社脳力開発研
 究所を設立 東海大学講師を兼務

1994年 徳島大学工学部講師、
 日本理科学検定協会理事長、日
 本数学検定協会理事

現在 脳力開発研究所所長、米国
 バイオフィードバック学会会員、
 電気通信大学大学院人間情報学
 研究科研究員 工学博士

日時 平成25年1月12日(土)

午後1時半～5時

会場 北とびあ7階701会議室
 交通 JR京浜東北線王子駅下車
 徒歩2分、ホーム最北端(赤
 羽寄り)の階段を下り改札
 口を出て見える高層ビル

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円

学生 一〇〇〇円

北陸日本サイ科学会 11月定例会のご案内

祈りのエネルギーについて

講師 清田益章先生(スプーン曲
 げ超能力から、おのりへ)

講師 高野誠鮮先生
 (日蓮宗 妙法寺 第41世住職)

日時 平成24年11月4日(日)

午後1:45～4:30

(午後1:15受付)

会場 金沢市文化ホール3階
 大会議室

会費 会員 2000円

一般 3000円

(随時入会受付)

●清田益章氏プロフィール

超能力者として、国内外の超能力
 研究に参加。国内外のテレビなど
 各メディアの取材を数多く受ける。
 現在、法具(九釘杵)を両手に、
 祈りと踊りを融合させた独自の祈
 り方、おのりを奉納する活動を行
 っている。

●高野誠鮮氏プロフィール

羽咋市役所員で「ローマ法王に米

を食べさせた男」のスーパー公務員として注目を集める。今回は、ご住職として、祈り、祈祷と効能・効果についてお話しいただきます。

皆様お誘い合わせの上、是非御参加下さい！

お問合せ 北陸日本サイ科学会

076・234・6634

(ホリスティック健康科学研究所内)

参加ご希望の方はお早めにご連絡下さい。

念願叶ってようやくお招きできました。大変貴重な機会ですので、一人でも多くの方をお連れ下さい。(北國新聞社後援)

関西日本サイ科学会 十一月例会のお知らせ

農畜水産物の革新への道

講師 白根正志氏

日時 平成24年11月17日(土)

午後1時半～5時

会場 大阪科学技術センター

六〇五号室

交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車

北へ徒歩5分 靱公園内

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円

学生 一〇〇〇円

お問合せ0797・22・6425

関西日本サイ科学会事務局まで

関西日本サイ科学会 2012年忘年の放談会

非会員の方も大歓迎です。

十二月の研究集会はお休みです。

日時 平成24年12月8日(土)

午後5時30分より

場所 山海倶楽部

06(6443)0209

※大阪市西区京町堀1・4・3

T C F 肥後橋ビルB1階

※参加ご希望の方には会場案内図をFAX等でお知らせ致します。

参加費 四五〇〇円

※12月5日(水)までに、事務局

木村までお申し込み願います。

0797・22・6425

関西日本サイ科学会 一月例会のお知らせ

出口王仁三郎の大復活

講師 櫻井喜美夫氏

日時 平成25年1月19日(土)

午後1時半～5時

会場 大阪科学技術センター

七〇一号室

交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車

北へ徒歩5分 靱公園内

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円

学生 一〇〇〇円

お問合せ0797・22・6425

関西日本サイ科学会事務局まで

五月本部例会報告

命とソマチットと

般若心経の探検

講師 徳永康夫氏

命とソマチットと般若心経は、実は全部つながっております。去年の年末に、「命の不思議探検」というタイトルで、たま出版から本を出させていただきました。この中身も同じように、命というものを追求しながら、途中で般若心経にも触れ、ソマチットにもつながっております。

つい最近「スライブ (THRIVE)」というDVDを知り合いから見せていただきました。「ユーチューブ」にも載っているんだそうですね。「スライブ」というのは、アメリカの方が創ったドキュメンタリータッチのお話なんです。その中には、世界的に陰謀を進めている、すなわち情報を操作したり、情報を隠したり、嘘の情報を流したりしているある勢力があり、彼等が世界を支配していることを発見した、いうことを実名で本人が顔を

出しながら、いろいろなインタビューをとっております。

あの中身は実は12年前に私が書いた本と同じ方向性なのですが、そのような闇の勢力とどう抵抗するかというと、マハトマ・ガンジーやキング牧師のような、喧嘩をしないで、戦わないで、多くの人々が心をつなげて、マインドを変え、世界を変えていこうというようなテーマでした。

私と同じように非暴力でブレークスルーする方法として考えたのは、お金のない村を造ってみようということなんです。日本のどこかにそういう無通貨の村をモデルで造ってみてうまくいけば、隣の村もうちもそうしよう、また隣もそうしよう、・・・という感じで増えていき、二〇一匹目の猿現象のように拡がっていき、お金を使わなくても成立する世界ができるのではないかということです。

それを説明するのは大変なので、私の本では、架空の村、すなわち四国の高知にモデルの無通貨の村を造り、そのことを聞いたある人が東京からその村を訪ねて行き、1日半の見聞録のストーリー仕立てになっております。

「スライプ」の作者は、IMF（国際通貨基金）やFRB（連邦準備銀行）を大きな人々の和で解体していこうという内容です。あの当時自分は実名で出版しようと思っただけですが、出版社が「いやー、ちよつと危ないのでペンネームで出しましょう」と言ってきました。



とうとう現代のアメリカでは、自分の国で行われていることや世界で行われていることに対する批判を、どうどうと実名で顔を出してお話していることはすばらしいことだと思えます。どんどん世の中は変わってきていると、私は

思います。

皆さんもよくご存知だと思いますが、情報の中にはいろいろな種類があります。真実の情報をT (truth)、間違いをW (wrong)、嘘の情報をL (lie)、あいまいな情報をV (vague)、隠された情報をH (hide)としますと、あらゆる分野でこういった「TWLVH」の情報があふれています。

ですから読む側にとって、「TWLVH」のどの情報なのかを判断するのが、難しくなっております。その判定法として、私は複数の人々、あるいは様々な国の人々がいろいろな角度から同じ内容が書かれている場合はT (truth)と判断しております。その結果、次第にT (truth)が集まってきました。集まると判断のためのある一つの物差しができました。

私は雑誌「ムー」が好きで、ほぼ創刊のときから読んでいたので、その掲載記事は玉石混交で、私はどの記事がT (truth)でどの記事がそうでないかの判断ができるようになりました。

今日皆様にお配りした私の著書「命の不思議探検」はプレゼントさせていただきます。もう1枚お

配りしたのは「般若心経」をプリントしたものです。

先ほど述べました「TWLVH」の観点からいろいろなジャンルのものを見ていきたいのです。私は科学者でもないし、医者でもないし、宗教家でもないし、僧籍もないし、超能力者でもないし、霊能者でもない、ただの「おじさん」ですが、いろいろな人々の文献を読んでみると、「TWLVH」が分かって来ることがあるんだな、という実例です。

科学にも、物理学、天文学、数学、化学、量子力学、医学、歴史学などいろいろな分野があります。我々の常識というのは、科学は信頼出来るといふことで、何か事象があると、「それは科学的に証明されているのかい？」と問われ、証明されていけば、どうどうと出せるし、証明されていなければ、「それは非科学的だね、そんなものは迷信だよ！」と一発で否定されてしまう場合もあります。

それでは天文学を勉強した人は物理学に精通しているのだろうか？あるいは生物学を勉強した人は量子力学を知っているのだろうか？ということがあります。

お互いに実はあまり交流しないのです。全部大学の教授につながって縦系列ですから。したがって情報との交換はないですし、他分野の勉強はしないのが普通です。それはそれでいいですね。

ただここにテーマとして面白いものを挙げてみたいと思います。「宇宙」というジャンルがありますが、私は小さい頃から「宇宙の果てがどうなっているのだろうか?」という疑問をもち、沢山の本を読んできたので、いろいろ知っております。

「宇宙」を勉強した人に何か教えてくれないか、と問うたときに、物理学からアプローチする宇宙、天文学からアプローチする宇宙、数学からアプローチする宇宙、化学から、量子力学から、生物学、歴史学からアプローチする宇宙など、その各々の計りの中で宇宙というものを見ることはできませんが、宇宙自体はすべてトータルなものなのです。宇宙は統一しているのです。それに対して答えが出せるのかというと、今はまだまだ答えが出ていないことが多いのです。次に「生命(いのち)」の正体は何ですか?と問うたときに、生

命というものはこういうふうだよ、というふうにも明快に述べている科学的文書を私はまだ見たことがないのでですね。科学で一番生命にアプローチしているのは生物学であり、最新の生物学である分子生物学でいろいろ成果が出ております。理学博士の川田薫さんの書かれた生命の正体に関する本も読ませていただきましたが、私はこの方は生命の真理に到達しておられるな、という感じはしております。

ということでは科学でまだ生命の本質は分かっているかと思えます。生命のことが分かっているかということはどういうことでしょうか?もし科学で人間の生命が分かっていたら、「死んだらどうなるか?」ということも分かっているはずですね。皆様がよくご存知の「輪廻転生、生まれ変わり」も、元々生命が分かっているわけではなく、「輪廻転生」も分からないはずですね。「神」や「仏」は科学で分かっていることはあるでしょうか?「ぼかなことを言っちゃいけない。それは宗教じゃないか」となりますね。「神仏」が宗教で分かっていることにしましょう。それなら何故、神様に関して、科学で研究しな

いのでしょうか?私には不思議でしょうがないのです。神様とはこれこういうもので、こうであって、あるとか、ないとか、あればあったでこういうものだよ、なければないでこういう根拠でないのだよ、と科学が真実を追求する学問であるならば、神様も研究してやればいいじゃないですか。なぜやらないのでしょうか?「宗教と科学とを分けたからです」と。その通りなんです。分けちゃいけないものだと私は思っております。

ここで誤解がないようにお話しておきますが、信仰だとか祈りというものは、私は全く否定しません。これはとても大切なことで、人間の中心、心の奥底から湧き出るエネルギーであり、見えないものに対する尊敬の念だとか、それは認めます。

ここで「UFO」とか「宇宙人」とか、これらは科学的に検討されているのでしょうか?これらの話をすると、一般では「そんなものを信じているのか?」という雰囲気、言うことがはばかれます。「UFOを信じているなんておかしい。」なぜそういうふうに皆が思うのでしょうか?これが、最初

に私が述べましたごちゃごちゃな情報、すなわち「TWLVH」が世の中にまき散らされているわけですよ。まき散らしているのは誰でもいいですか?一般大衆の立場に立ってみると分かりますが、新聞やテレビですよ。NHKとか朝日・読売・毎日新聞が「UFOが世界のこっちで現れた、あっちで現れた。民間人がこういうことになつた。」などという報道は一度もありません。

一般の大衆の方はテレビや新聞が報道すれば、信用するのは、何故でしょうか?これはある意味で「洗脳」なんです。まさか朝日も読売も毎日NHKも一緒になつて、嘘をつくとは思いませんよね、誰も。あるいは嘘をつかないまでも、H (Hide) すなわち隠している可能性があると、私がいろいろな論拠をもって話しております。それで不思議なのは、一般の方々は自分で真実を追求しようとする姿勢はあまりありません。毎日働いたり、学業で忙しいので無理はありませんが、テレビや新聞に頼ってしまうのです。そうするとこういうことについて、マスコミだけの発表をベースに判断をしてい

いのでしょうか？

私はいろいろ資料や文献で調べていますから分かりますが、テレビのワイドショーなどにコメントーターで出てくる科学者だとか、医者だとかは、かなり明らかに嘘をついています。一般大衆が得られる情報の多くはそれしかないんです。だから、皆さんは科学がUFOや宇宙人を研究していないと思っっているのです。コメントーターで出てくる、学者も「UFO、バカなことを言っちゃいけないよ。あると面白いけどね。」なんていうようなことを信じさせるようにしているのです。一般大衆はいないと思っっているのです。

UFOがもしあれば、宇宙人はいると思っますか？ そうですよ、いなければUFOに乗っっているのは誰だろう？ ということになりますよね。それでは、UFOに乗っっている宇宙人は、地球人よりも科学的に遅れていると思っますか？ 進んでいると思っますか？ そうですよ、どこの星か知りませんが、大変な距離をUFOですっ飛んで来ているわけですから、進んでいて当たり前です。それと比べましたら、月まで行っったアポ

ロ宇宙船は原理的には「打ち上げ花火」と同じであり、UFOの科学レベルはずっと先を行っっているでしょう。

私は科学と宗教を分けたこと自体が我々人類にとって不幸だったのではないかと思っます。宗教がいけないということではなくて、神仏というのがありますが、皆さんは釈迦やイエス・キリストは神だと思っますか、人物だと思っますか？ 私はいろいろ研究して、釈迦やイエス・キリストは人物だと思っます。人物といっても、霊格はとも高くて、宇宙の真実を知っていて、それを出来るだけ多くの人々に教えようといっことで現れた人々の一人です。釈迦やイエス・キリスト以外にもこういっ役割の人物は、過去から現在まで沢山いらっしやいます。そうすると釈迦やイエス・キリストは宗教じゃないかと思われるかもしれませんが、仏教は宗教ですが、釈迦は宗教ではなく、キリスト教は宗教ですが、イエス・キリストは宗教ではありません。

聖書で問題なのは、ずいぶん改ざんされています。旧約聖書、新約聖書にも、輪廻転生のことが書

かれていましたが、西暦553年にコンスタンチノーブルで開催された第2回宗教会議において、この削除が正式に認められたのです。それに対して仏教の経典は改ざんがなく、私が読んだ経典では輪廻転生は当たり前のことです。だから釈迦は死んじやったけれども、経典は認めて、これを科学的に追求することは出来るんですよ。勉強もできます。それから、イエス・キリストの新約聖書も研究しようと思えばできます。それを「いやいやこれは宗教のことだ。」といっって、はずしているのが非常に疑問を感じます。

科学といっるのは、ある意味で目で見える世界、物理的に計測できるものを対象としています。見えないもの、例えば、気や気功、霊能力、超能力は通常の科学の対象となっっておりません。これが正しいことなのか。一般の大学のカリキュラムにのっっていないといっことは、非常に不思議なことですよ。私は宗教と科学を分けること自体が、我々に対する洗脳が行われているのではないかと思っます。私は「命の不思議探検」に色々なことを書いておりますが、一般の皆

さんが常識と思っていることが意外と間違っだったり、錯覚だったり、学校で教わっったことが間違っだったり、社会で教えることが間違っだったり、そういうことを書いております。そしてそれに対してどう思っますかといっことで、著者と読者が一緒になっって、不思議なことを探検していきましよう、といっ観点で書いております。

神様といっるのは、大科学者が認めております。アインシュタインとか、湯川秀樹博士、村上和雄博士とか、この方達が書いておられる日記・随筆等に「科学でいろいろ追求し、追求し、最後まで追求していくと、これは偶然に出来たものではない、何か意志をもった存在がこの事象や物体を造っったとしか思えない、そういう現象にしばしばあちります。」と書いておられます。村上和雄先生はすべての遺伝子を書いた存在は「サムシング・グレート(Something Great)」と呼びましたが、これは別の言葉で言えば、宇宙全体の唯一の創造主であり、神様といっことになります。(つづく)



第三百六十九回関西日本 サイ科学会研究集会報告

「ニュートリノ光速超え」の謎を解く鍵は正四面体(プラトン立体)構造を持つSiOH(珪酸シリコン)の生まれメカニズムにあった(仮説)

講師 いよのいし氏

とき 平成24年6月16日(土)
ところ 大阪科学技術センター

プロフィール

1940年1月5日平壤生まれ。1990年頃よりオリジナルな視点で日本語の極意から超自然の成り立ちをひもとく。著書に「天孫降臨マナの壺」「邪馬台国伊予の愛媛西条説」「いのちのことば」「日本の言葉で宇宙をひもとく」(平成24年7月発行)等がある。

「ニュートリノ光速超え」の実験は追試が必要な段階だが、仮説として、電子ニュートリノを虚実複素共役変換式で計算すると、電子ニュートリノの70%は虚実螺

旋運動で生まれる物質起源といえる正四面体構造の半分の要素を担い、宇宙の70%を占める「SiOH」に凝集核融合され、残りのニュートリノは、この「SiOH」の螺旋渦(五次元)を通過することにより、光速を超えたように見える。



この事象から、宇宙に反物質が存在しない理由が見えてくる。

阪大名誉教授工学博士高橋亮人の著書「常温核融合2008」(工学社)によると『凝集核融合(常温核融合)には「4D核融合」(D≡重水素)など「秩序」の条件下で「正四面体凝縮」が形成され、「量子トンネル効果」を生む』と指摘。

「凝縮核融合」と「ニュートリノ光速超え」のメカニズムは無関係のようであるが根源では一つに繋がっている。正四面体(SiOH)の「量子トンネル効果」によりニュートリノの光速超えは説明がつくと同時に現代物理学のあらゆる未決の問題を解決する「超統合論」の可能性を秘めている。又正四面体の虚実連続回転で正二十面体の生まれるメカニズムも発見。

☆ ☆

ニュートリノの光速超えはインシュタインの相対性理論と矛盾なく、虚数を使えば、理論上可能であるという前提で話します。

宇宙と言葉の結びつきがあり、真善美、は五角形、六角形と関係している。五角形、六角形は常温核融合によって生まれる。

光速超えもこの常温核融合から生まれる五角形、六角形と関係している。よって常温核融合のメカニズムを解き明かすと超光速の謎が見えてくる。

以下その論証の参考になる著書を示す。

1. 小柴昌俊「ニュートリノ天体物理学入門」
2. 高橋亮人「常温核融合2008」
3. リサ・ランドール「異次元は存在する」
4. 中島俊樹「水と珪素の集団リズム力」

佐藤勝彦自然科学機構長によれば四次元、五次元を仮定すれば光速超えも可としているので常温核融合によって、ニュートリノから珪素の膜が生まれ、この膜が五次元膜のねじれた通路をつくりそこをニュートリノが通過すれば、みかけ上超光速は可能であると説明がつく。

ニュートリノには電子ニュートリノ、ミューニュートリノ、タウニュートリノがある。

電子ニュートリノから水素原子やヘリウム原子が発生する。

これらニュートリノは太陽の核爆発や超新星爆発の時に発生する。その高温ニュートリノが宇宙の冷却状態になると常温(低温)凝集して物質誕生の正四面体となる。

五角形は連続性がない、対称性が破れている。五角形が物質の始まりである。物質は対称性のあるものと破れたものからなる。

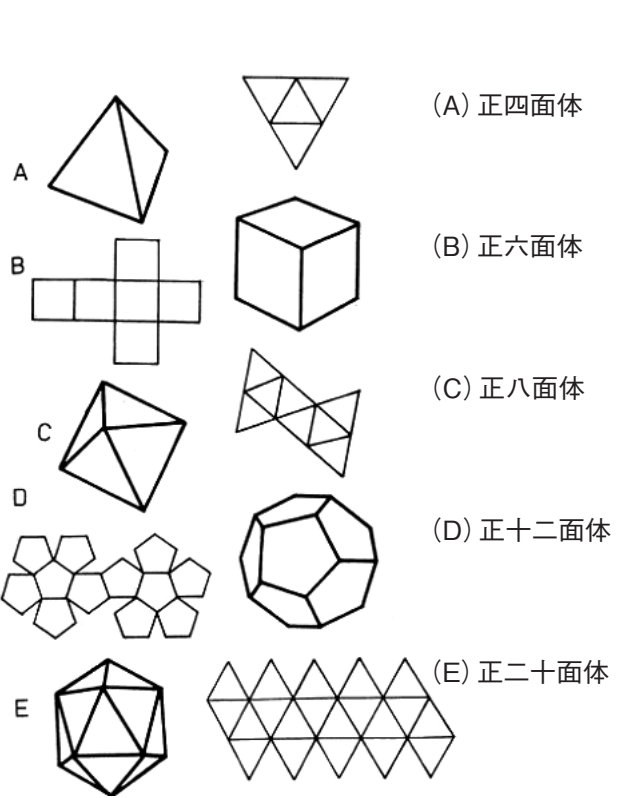
正四面体螺旋二十面体回転。電子ニュートリノは計算よりも70%少ない。残りの30%がタウニュートリノ、ミューニュートリノ、70%がダークエネルギーとなって対になっている。これが地球に届いている。

グラビトン（重力子）は電子ニュートリノの物質化した「電子珪素II（超伝導体）」である。この超伝導体の通路を通れば見かけ上光速より速いと考えられる。発表後初期実験では3年間で3万回行っすべて光速を超えている。

低温核融合には重水を使用する。水と珪素により生命が発生し、集団の秩序が生まれる。

プラトンの立体がエネルギーが最小になる(図1)。

虚実螺旋回転により生まれる。スパーウエーブである。常温核融合実験でストロンチウムからモリブデン、珪素、硫黄、カルシウム等多種の元素が発生する。これは核融合で発生する。



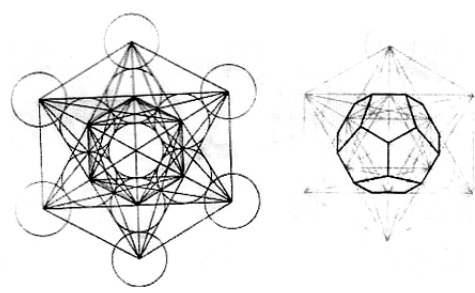
低温超伝導体があれば、荷電中性(子)の中心力により凝集する螺旋運動が起きる。リサランドールもいうように見えない世界が見える世界を作っている。

高温核分裂によって電子ニュートリノが発生、その形は質量を持つ高温対称性の粒子となり、いわゆるこれが神の粒子と言われる「ヒッグス粒子」である。そのヒッグス粒子が低温核融合により、高温と低温の温度差で台

風のように螺旋回転が発生し、正四面体が生まれる。この時対称性が破れ物質の誕生となる。五次元とは縦、横、高さ、時間、螺旋回転で螺旋回転面がずれている。

エネルギーの大きいところと小さいところで同じこと(核融合)が起きる。虚実のターニング 虚実一体で物質が出来ている。ビッグバンにより対発生と対消滅の現象が発生するが、冷えるこ

六角形(=物質)は五角形(=精神)が回転することで動く



とで消滅が少なくなり、物質が生まれる。水分子が4個集まって正四面体となる。高温時は対称性があるが、急速冷却により物質化し対称性が破れる。

右：メタトロン立方体の中の五角
左：メタトロン立方体
正十二面体

宇宙は長方形をしている。クラスター化には五角形原理が

入っており、外は五角形で中は六角形であり、これは物質の中に精神が隠れていることを示している。意識もニュートリノも同じ。トネルを通ればワープできる。精神だけでは成り立たない。この世が無ければあの世はない。

東北大学 多元物質科学研究所の蔡安邦教授は、高温液体合金を急速冷却することで、第三の固体準結晶（半結晶）を人工的に加工することに成功した。

その形は五角形をしている。その実験により最初に自然物から発見したイスラエルの化学者ダニエル・シエヒトマン博士は2011年発見から、27年経過してからノーベル賞を受賞した。

注1「メタトロン」（図2）とはユダヤ教の天使の一人で「神の代理人」の意で、その他宗教的な多くの意味を持つ。

「ウィキペディアより」
注2「メタトロン立方体」（図2）とは――

プラトンの五つの立方体（正四面体、正六面体、正十二面

体、正二十面体）（図1）を「神聖幾何」といい神聖幾何の女性原理（円）男性原理（線）をイメージ合体させた幾何をいう。このプラトン立方体は宇宙の構成パターンの基本原理になっている。

「インターネットより」

☆ ☆

五角形と六角形は物質の発生と関係しているようである。

これが五角形と六角形がいろいろなシンボルに使用されている理由であろう。

これについてより深い研究を進めてほしいものである。

当日の参加者は会員12名、非会員17名、合計29名でした。今回のカセットテープは20000円です。事務局（0797・22・6425）まで

（関西日本サイ科学会会長

河野 明夫）

第三百七十回関西日本サイ科学会研究集会報告

誰でもが幸せになるプラチナの風が吹く

講師 重川 風天氏

とき 平成24年7月21日（土）
ところ 大阪科学技術センター

重川氏は昭和19年生まれ、新潟出身。真冬の滝業や断食を体験。インド釈迦の聖地を巡礼する。仏教やキリスト教生長の家神道など数多くの宗教遍歴を経て、苦行や宗教は不要と実感する。

知花敏彦師の伝える真理をより深く理解するため毎日の瞑想を行っている。

現在は風大研究所の顧問として宇宙エネルギーの研究開発に取り組んでいる。

又、全国各地をまわりながら、健康になる方法や幸せとは何か、宇宙エネルギーとは何か、真の脳開発など講演活動を行っている。

天は人の上に人をつくらず人の下に人をつくらず、全ての人が平等で自由である。釈迦は、極楽（幸せ）は、はじめからあなたの心の中にある。イエスは、天国（幸せ）はあなたの手より足より近し。

誰でもが初めから幸せになれるのです。そのメカニズムや具体的なプロセスをプラチナの風と名づけました。

自分とは何か、人間とは何か、意識とは何か、哲学や宗教論や精神論ではなく、誰でもが同じように理解できる内容をお話しします。

お母さんや子供でも理解できる、色即是空、空即是色、色心不二、色心不二が理解できるとハートセンター（胸）があつくなると体中がエネルギーに満たされます。

☆ ☆

ヒマラヤで修行した二人の日本人がいる。中村天風師と知花利彦師である。その二人に重川氏は強く影響を受けている。

中村天風師の天風を風天として自分の名に頂いた。

もうひとりの知花利彦師の話が

今日のメインである。

知花師は今は宇宙科学系の時代であるという。

宇宙は二つある。

一つは仮想宇宙で星、太陽、地球、銀河系の現れた宇宙である。

もう一つが実相宇宙である。

霊体 実相、原因

幽体 経絡、現れを写す

肉体 人間の形をとる

すなわち現れている空の世界と、実相世界である。

今日は全知全能の脳の能力と自分で実感して体感したことを話す。

10年前は神という言葉は使えなかった。

私達は転生を繰り返して自身自身が本来神だと悟るのが生きている目的である。

動物の中で人間だけが神を認める能力を持っている。

宇宙であり、神であり、愛であり、空である、自分の力を発揮できる。

直感は上から来るものではなく自分の中から出るもの。

眠っている時右に入った情報が左へ入り、答えを出してくれる。

このためには問題意識を持つことである。それを文章にする。それも箇条書きにする。これを繰り返していると分りやすい答えが出てくる。それが神が人に与えたものである。



力とは能動原理と受動原理の合わさったもの。

陰 陽

水 火

受 動

母 父

いぎなみ いぎなぎ

神 中庸 仏

宇宙はこのように二つのものが合わさったものである。

中性子、陽子、電子は愛であり人間の心と繋がる。

宇宙エネルギーも含めてすべて愛である。

愛がなければすべてのものは存在しない。

もともとは絶対のひとつのものがあり、それが二つに分れた。

存在するのは中性子、陽子、電子が働いているからである。

山で鳥とか獣が、死んだあと消えることがある。それは用が無くなったから消える。

電子は楕円軌道をとる。円軌道では振動が起きない。

「観る」とはイメージでみることである。

意識エネルギー

神は愛、意思である。

「意」という字は、「心」の上に「日」が「立」つと書く。

意識には意識するものと意識されるものがある。

真理は一つである。私も真理を探したことがあった。

すべての真理はひとつであり、神は愛である。

「正」という字は「一」つが「止」

まると書く。

神は何故人間を創ったのか。

それは神はすべてであるがなにもしない、これはなにもないのと同じ。

神は自分の愛、真理を表現するためにある。

神は何故表現するのか、それは力であるから。

神は無限の力があるが使わなければ無いのと同じ。

お金と同じように使うことで価値が出てくる。

神は永遠に働き続ける。

今の神の体験は、地球の汚れを正すこと、邪気を消すことが一番である。

ホオポノポノに「許して下さい」という言葉がある。これは自分を下げることになる。

本来自分は神である。その神が自分を許すのである。

つまり自我を真我が許す。すべての人が自分は神であることを知っている。

許すということは神の立場で神の言葉であり、これ以上の「こと

だま・言霊」はない。

瞑想とは

見えないものを観る 意識で観る 心で観る

「心眼」でみえるのは「天国」で波動が高い。

「肉眼」でみえるのは「地獄」で波動が低い。

「内観」では愛を見る。波動が高く力がある。

無になるとは意味がないこと。

これに対し無限とは制限がないことをいう。

イエス、仏陀等の聖典は夫々の時代の産物で、その時代のたとえ話で説明されており、今の時代は理解し難い。

これに対して知花師は現代の言葉で説明しており分りやすい宝物であり、誰でも分かる。

現代の物質世界は行き詰まりつつある。その中で日本人は目覚めてきている。

内観を行うことで自分の中に減らない電池ができる。

愛を観る。何を見ても愛、空、

中庸である。

風により木が揺れる。これは木が風を避けて動いていると見ることもできる。

働きを見ることで色心不二の世界がみえてくる。

☆

☆

自分の中に宇宙に繋がる最高の神がいること、それに近づくことが人生の目的であることを分りやすく示された。一歩でもそこへ近づきたいものである。

当日の参加者は会員11名、非会員9名、合計20名でした。今回のカセットテープは20000円です。事務局(0797・22・6425)まで

(関西日本サイ科学会会長

河野 明夫)



《本部月例会・全国大会講演録の販売》

本部月例会・全国大会のICレコーダーによる録音の音声ファイル(拡張子 wma)なので、聞くためには「CD、DVDプレーヤー」の付いたウィンドウズ・パソコンが必要になります。

以下のリストから興味のある講演、今一度聞いてみたいものを御注文願います。講演時間は平均3時間前後で質疑応答等も含まれます。マイクからの直接録音ではなく、やはり会場のスピーカー音の録音ですので、完璧な鮮明さではありませんが、もちろん内容は普通に聞き取れます。当日放映されたビデオやOHP等で紹介された図や写真は付いておりません。

講演録の代金は1回分2000円(送料等含む)です。お送りするのは講演録の入った「CD-R」で1枚につき6、7回分が入ります。(一部のノートパソコンを除いて、大抵のウィンドウズ・パソコンには、「CD-Rファイル」が読めるプレーヤーがついております。)

※御注文は郵便局にある「郵便振替用紙」の通信欄にご希望の講演録の『年/月 講師名』と金額(1回分2000円)を記入し、郵便振替口座 00100-2-15344 加入者名 日本サイ科学会にお振込願います。

あるいは、メールで先に事務局 office21@psij.mail-box.ne.jp に注文されても結構です。

- 2009/ 2/14 天野聖子氏「大いなる自己と対話する自問自答の重要性と地球の現状」
- 2009/ 4/18 小牧昭一郎氏「人間の体の周辺に観察される磁気」
- 2009/ 5/ 9 膳 敬子氏「若返って本当？」チベット体操を体験、感じるワーク
- 2009/ 6/ 7 山本 輝氏「言霊の幸はう日本国の復活」
- 2009/ 7/11 高月美樹氏「太陰太陽暦の活用法」
- 2009/ 9/12 高峯秀樹氏「未来を探る手相の神秘と科学」
- 2009/10/11 第20回全国大会 シンポジウムテーマ「ヒーリング」
- 2009/11/14 山口敏太郎氏「真実とフェイク」環境汚染とDNA操作による未確認生物(UMA)の誕生について
- 2010/ 1/16 前田知則氏「21世紀への適応プログラムとしての心のデトックス」
- 2010/ 2/20 須田泰心氏「超能力者の構造」
- 2010/ 4/10 根本泰行氏「映画『ウォーター』にみる水の真実」
- 2010/ 5/ 8 堤 裕司氏「レイラインと富士塚信仰」
- 2010/ 6/20 久保田昌治氏「水とは・・・水は生体内では勿論のこと自然界でも今我々が考えているよりはるかに重要な働きをしている。」
- 2010/ 7/10 木下次男氏「福島県飯野町『千貫森謎空間』補足：UFO学について」
- 2010/ 9/11 感じられる“サイ”ー3種類のサイデバイス・ソフト体験会ー
- 2010/10/10 第21回全国大会 シンポジウムテーマ「2012年問題とサイ」
- 2010/11/14 秋山真人氏「夢診断と未来予測」
- 2010/12/12 宇治橋泰志氏「新たな予防医学を目指して」
- 2011/ 1/ 8 新年会も兼ねた会員の体験意見発表と討論の会
- 2011/ 2/12 石川和孝氏「世紀末的神示と予言の陰陽道的思考」
- 2011/ 5/14 赤松 瞳氏「最新脳科学と透視能力」
- 2011/ 6/12 井出 治氏「未知エネルギーの研究とチャネリング」
- 2011/ 7/18 古村豊治氏「なぜあなたに大きな奇蹟が起こらないのか？」
- 2011/ 9/10 鈴木俊輔氏「3・11 新文明の幕開け ～日本人の使命～」
- 2011/10/ 9 創立35周年記念大会 シンポジウムテーマ「パワースポット」
- 2011/11/12 小林信正氏「心霊現象について」
- 2011/12/10 忘年会も兼ねた会員の体験意見発表と討論の会
- 2012/ 1/14 ミッツィ 植田氏「縄文スピリットでサバイバル」
- 2012/ 2/11 小林正典氏「サイ科学に関係した電気・磁気の研究の紹介」
- 2012/ 4/14 ロン薄葉氏「オーブ現象とこれまでの歩み」
川崎利男氏「オーブ観察7年間その傾向と残された課題」
- 2012/ 5/12 徳永康夫氏「命とソマチットと般若心経の探検」
- 2012/ 6/10 松永修岳氏「密教開運術『強運の成長戦略提言～氣を高めれば運はやってくる～』」
- 2012/ 7/14 中島敏樹氏「水と珪素の集団リズム力」
- 2012/ 9/ 8 ホンマシュウジ氏「未曾有の天災・人災を目の当たりにして、サイ科学は何ができるのか!？」
- 2012/10/14 第22回全国大会 シンポジウムテーマ「コンタクト」

微細身粒子というのは、さらに微細な粒子で、欧米の神智学というオーラのこと、未知現象発生時に、チャクラ(生命エネルギー・センター)ヤツボから放出されると判断されている。

図1をみる。(三)の見える世界と(四)の见えない世界の両方に跨って零場がある。未知現象は零場のうえの零点で出現している。検討によると、図1の(二)ならびに(四)の心と物の深いところでは、物と心の区別がつかない程に類似しており、相互に作用しあい、交流しあっている事が判ってきました。心は物であり、物は心である。したがって、心で念じることは、零場の上に、マクロな現象(未知現象)として発生してきます。最近になると、零場付近における現象の応用として、半導体が発明されました。例えば、ダイオードです。素粒子のはたらきが原因となって、半導体を介してマクロな現象があらわれてくる。

このダイオードの応用として、様々な情報機器が発明・開発された。携帯やパソコン、衛星通信、TVなどに応用されており、我々の生活を飛躍的に便利にさせている。このような研究をさらに深化させて意識、無意識の世界にまで拡張することができれば、どれほどか、我々の生活を便利にしてくれる事か、それら恐ろしい感じがします。私達のサイ科学の研究範囲は(四)、(二)、(一)になるだろう、と思います。なお、サイ(気)が原因の未知現象(奇跡)は零点で発生しています。

3. 測定が難しい分野

現代科学は再現性と因果律をもとにしているが、その基礎は測定にあります。測定はできないが、社会生活には極めて重要であり、また欠かせないものとして、形而上学があります。これは精神や魂に関係した分野で、図1の(一)、(二)で示したように。人々の感情や無意識をあつかっており、科学の介入を許さない未開拓の分野であります。たとえば、

- 1) 思考：意識(心)、魂、判断、
- 2) 情緒(無意識と性)：好き、嫌い

- 3) 道徳：善悪、判断、思いやり、信仰心(宗教)
- 4) その他：美術、芸術、音楽、などがある。

未知現象の原因は「見えない世界」に潜在しており、計測は素粒子が対象になります。この理由として、未知現象の結果が示すサイ(気)の性質と素粒子の性質は、きわめて類似点が多いと言うことにある。つまりサイ(気)は素粒子であるといえます。上で述べたが、素粒子は非局所性があり、あいまいで、状態が決まらない。また虚数(イマジナリ)を含んでいる等。

一方、サイ(気)の測定についての注意事項として、実験者効果ということ、つまり測定者と測定される対象物のあいだが繋がっている、または、量子絡み合い(QE)が形成されている事が要求されています。形成された場合に大きな結果が得られ、形成されない場合は小さい、ということに注意すべきでありましょう。

つまり、意識と測定対象物が「繋がる」か「繋がらない」かが問われることになる(QEは後述)。未知現象は、実験値として確かに存在するが、測定には更なる工夫が必要である。現在のところ、サイ(気)の本質や性質は不明なので、直接測定はきわめて難しい。そこで現在は仲介物をおいて、その仲介物の変化を介して、サイ(気)を測定することになる。仲介物として何を用いるか、我々は、分杭峠では「水」、透視・念写では光子・電子を用いた。さらに我々は生命体、例えば卵、植物、魚、水など(中国との共同研究)、ISLISの山本幹男らのグループは人体(生命機能)を用いた。

世界には聖地とよばれるパワースポットは極めて多い。たとえばエジプト、ストーンヘンジ、ウエストミンスター、ルルドの水、エルサレム、日本国内の神社、仏閣、その他、様々であるが、聖地の科学的な測定結果は殆どないという事ができます。さらには、別の測定不可能な対象としては、「生命」があります。生命はこれらとは別に、自ら生きるという志向性を持ち、ネガエントロピー(秩序化を進める性質)という、物とは別の性質をもっています。



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行

電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

公式サイト <http://homepage3.nifty.com/PSIJ/> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

願いを叶える為の科学 (1)

佐々木 茂美

1. はしがき

私達は、いろいろな希望や悩みを持ちながら、毎日の生活を繰り返しております。欲望にはきりがありませんが、少なくとも、これだけは叶えさせて貰いたい、という「願い事」の一つや二つは、必ず持ちあわせております。季節のかわり目に伴う生活の節目には、神社や仏閣などの聖地にお参りして、両手を合わせて、お祈りをするのですが、単なる気休めではなく、確かに願いが叶った、と確信の得られる場合があります。

私達の身のまわりにおきる出来事をみますと、ふつうは、良い事柄が50%、悪い事柄が50%程度でしょう。しかし、筆者らの方法を応用してこれを60%と40%、70%と30%というように、良い事柄が多い方向に変えることができれば、どんなにか素晴らしいことか。そこで、今回は「是非とも」という切実な願いを叶える方法の基礎について、検討することにします。

2. 未検討の研究分野

私達の毎日の生活を、四種類の世界に分けて示したのが図1です。左上の(一)は精神または心の世界であり、心とは、意識と無意識の両方を含めたものをいいます。また、意識とは常識のことで、人間としての知性や理性をいいます。

いま科学技術の最先端、最盛期にあるのは、アメリカとヨーロッパであると思います。そこに生活している多くの人達は宗教としてキリスト教の信仰をもっており、クリスチャンです。キリスト教は三位一体の神、つまり、父(神)と子(キリスト)と精霊というように、人の心は神によって造られているので、また人間としての尊厳でもあるので、科学は犯してはならない。つまり科学的な方法で心を分析し、解析してはならない。心の科学分析はタブーであったという歴史を持っております。

科学的な分析とは何か? というと、再現性と因果律が成り立つということ。その方法をつかえば、だれでも、何時やっても、何回やっても同じ結果が得られる、という事を意味しております。このタブーがあった為ですか、心の世界は、今から5年、10年、50年~100年もの永い間、科学的な解明や解析が行われていなかった。つまり心の世界は、進歩がほとんど無い状態で過ぎてきた、と言えると思います。

しかし、今になると、人工知能やロボットの開発・発達の面から、精神の科学的な研究・開発が行われるようになってきました。図1において、意識と無意識のあいだには、直線で示した壁があります。知性や理性を薄めて無意識に近づけ、意識を変容(変性)させたものを変性意識状態(ASC)といいます。なお壁を、一般には、抗暗示性障壁とよんでおります。